明治四十年十一月十七日 京城新報 （日曜日） 第八號 （一）

京城新報

發行所 京城新報社 電話六六三

論說

敢て當局者の反省を促す（下）

立石生

今假りに百歩を讓りて其企畫者、計劃者が天性事業を創始し經營する特種の手腕才能を有すと雖も、不幸にして内に實力の蓄へなく、身に方策の施すべきなしとせん乎、されど其意の在る所、精氣の凝る所、幸ひ他の有力なる援助を得、庇護に依りて終に其素志を遂行せんも未だ測り知らざるべきものあるに非ずや、而も吾人は未だ曾て内に一厘の具へ無く、胸に方策の施すべきなき事業の企畫者あるを聞かざるなり、而して之が稱して所謂一浮浪者一措大なりと云ふ雖も、开は外觀形式の見解にして、試に其背後を洞察しなば識は意外にも覆面したる金窟又は偉人の佇立せるやも亦未だ測り知るべからざるに於てをや、思ふに當局者が其器局の狹隘にして膽識の細小なるに呆然自失の外なきなり、

更に又吾人をして慨歎の念に堪へざらしむるは、斯く鋭意極力邦人の熱心なる事業熱を抑壓拘束し且つ之が企畫者を蛇蝎視し、仇敵視するにも拘はらず一般泰西人の事を企て業を爲さんとするものに對しては一も二もなく之を聽許認識し、且つ與ふるに諸種の便宜を以てし、亦其人物の如何の如きに至つては更に措し問ふところなきこと是れなり、勿論訂盟親善の交誼上其國の國民をして一人たりとも產を爲さしめ且つ遺利の均等を圖るは固より其然る所にして其間敢て不可を見ずと雖も、翻つて今や之が保護扶掖の任に當り、開發啓導の責を負ふ我邦人が雄々しくも、其雄才壯圖を抱いて此地に來り以て永遠の基礎を築き、百年の大計を樹てんとする切實緊要なる時機に際會したるにも拘らず、却て之が邦人の起業の心を沮喪せしめ、興產の志を挫折せしめ、而して唯に獨り泰西人種にのみ之が保護翼贊の特典を與へんとするが如き觀あるに至つては吾人は頗る當局者の心事を疑ひ咄々怪事を叫はざるを得ざるなり

要之事業なるものは「モチー」其者に非ずして「マン」其者に在り、黄金は常に事業の源泉に非ずして、之が本源は實に人物にあり人物は常に事業の生命なりと知らざるべからず、故を以て胸に遠大の抱負を蔵し胸に雄壯なる經綸を描く有爲の材にして一度び足を八道の事業界に跳ぐるものあらば之が當局者たるものは符つて是等の人物を歡迎し補助し以て其目的を貫徹せしめ素志を遂行せしむることに努めざるべからず、況んや韓國啓發の大本たる一に係つて殖産興業の四字に外ならざるに於てをや、思ふに彼の往年林伯の公使として當地に駐在せらるゝや、其平素の手腕力量に於ては吾人と雖も強ち敬服嘆賞せざるものありしなり然れども其比較的識量の宏寛にして其人物の如何を問はず庇護指導し苟も邦人の計畫謀等に對しては毫も猜疑の念を以てせず却て大に起業の勃興と殖產の發達とを奬勵鼓舞せしは吾人の今に於て尚は且つ多とし諒とせる所なり、然るに今當局者施設の法たる唯に外觀形式にのみ拘泥して、毫も立國の大本を策するなく姑息なる手段と因循なる方策とを以て民間澎湃として漲る事業熱の勃興を掣肘高壓せんとす愁も亦笑に堪へたるなり、知らず當局者は尚且之を以て將來施設の功を見經營の美を收んとするか

一年雜記

韓南と韓北（上） 對星樓山人

不謹愼の罪を犯かさずして暫らく休養の恩澤に浴せし間、我輩は久しぶりに朝鮮旅行を半島の兩極縱斷線に旅行した、時しも秋風漸く長白山頭に到るの頃にして韓北到處雨毎に秋聲を聽き、夜毎に秋聲の高きを覺ね、與に多大の旅費よりは一時千金の興感を得たりしを喜むだ、當時韓西一帶の驛路は、帝國軍隊の餘光によりて我國民は驛路到處酒旗と青樓とて大賑合であつた。開城を空過し新幕に着し、多數の日本國旗と家尾の櫛比するを見て新日本部落の繁榮を祝し、平壤に三泊して戰役の大膨脹に浮かれつゝ尚繁華の夢を想像し、若しも黄海と日本海との連鎖中央市場となつたならば京城以上の市府建設を近き未來に目擊し得るだろうと想像し、安州驛を過ぎ、韓西大市場が如何なる地域にあるかを疑ひ、孤立的驛路の狀態を嘆じ、白馬山を横ぎり、新義州に着した是れ則ち半島の極端市である新義州と安東縣とは鴨綠江を隔てるに一衣帶水なり、満領沿岸の林立船檣に比して韓領沿岸は國境税關の旗と高樓聳ゆて三綫の歌吹盛なるを見て私かに半島の極端市に於て樂天的殖民地が急激に勃興したるを觀察した

新義州より龍岩浦、義州の殖民部落を見舞ひ、僅かに三年を經て、數千の人口が移殖されしを觀て、戰火の光輝を敬重するを禁し得なかつた、半島と大陸とを横斷せる鴨綠江の水源は、未だ此殖民には見ない戰場の習士產を拾ふ爲めに此原野に徘徊して居るである。

此僅少なる時間に於て韓北一帶の殖民部落に就て我輩は斯く觀察した、則ち京城以北に於ける我民族の膨脹は經濟的發展の狀態に基くのでない、彼等は韓民族と經濟的連鎖を作りてない、只だ戰後の餘澤と鐵道工事の投資を掠奪せんが爲めに腹肥して居るのである。

作蠶事業の前途と白馬に於ける成績

作蠶は本年始めて白馬に於て放育を試みたれば其時期も豫定より約三週間を遲れたるのみならず殊に早創の事とて放樹の撰擇種繭の精撰等固然を期し難くして蠶兒發育上聊か懸念なきにあらざれば其結果如何に就ては極めて悲觀せしに幸にも好成績を得たりと謂へば先づ此業の奬勵發達上に藏る影響は頗る滿足すべき事と謂ふべし今其試育當初より取繭に至りし迄の經過及種繭粒數と其收獲繭との步合等は大要下の如き成績を現す最初種繭十万粒を孵化せしめしに孵化せざるもの二萬五千粒ありて全く放育せる兒虫は七萬五千匹なりし然るに本年は例年に比し氣候頗る適順然かも降霜の時期例年よりも遲れたる爲め其害を受くる事稀なりし故其發育殊の外佳良なりければ其收穫繭約四萬五千粒を收めたり則ち之れが步合は實に五割七步強に該當するものと謂ふべし去りながら此良成績たるや勿論本年創ての試驗なれば經費の點などは深く顧慮せず及ぶかぎり注意と監督を現にせし結果と上述の氣候適順との給ものにして之れを以て一般此業の範と爲すは收支の上より打算して到底能はざる次第なるも兎も角之れを相當に判定しても滿洲に於ける支那人の放育收繭に比すれば同地方に於ては二割の步合を得れば平年作として相當に利益を收むると謂ふに比し白馬に於ける本年の成績の如きは實に空前の收獲なりと謂ふべし尤も支那人と吾か白馬に於ける養蠶方法は自ら種繭の良否撰擇上大なる徑庭ありて彼等は實に粗漏なる方法に於て爲すと雖も時に多年の實驗は爭ふ可からざる成績を收むる事ありと然らば邦人にして少しく此業に着目するの事業家は幸に本年白馬に於ける成績[illegible]の事實により推定すれば韓國（殊に白馬地方）は滿洲に比較すれば作蠶養育に就ては本年の試育に鑑み天與の好適地たるは爭ふべからざる事を斷定せる實況を得たるは韓國に於ける此業の發達上幸福なりと謂ふべし

各地産出大豆概況

四十年八、九月調（財政顧問部）

	作別反別	收穫概算	一石の時價	一年間移出概算
晋州	三四、一六一、九反	一六二、八三三石	圓 厘 [illegible]	一一三、九七四石
公州	八五、二六三斗落	六三八、四一六	八、〇〇〇	五一、二九〇
開城	五、一〇〇、〇反	七六、〇〇〇	七、二〇〇	五〇、〇〇〇
大邱	四、七五五、六	三三、七三九	五、八〇〇	一〇、一五七
慶州	三、三二〇、〇	三四、三四二	六、〇〇〇	三、六五〇
水原	八、二二〇、〇	一二三、〇〇〇	六、五〇〇	五八、〇〇〇
光州	六四四、七	一四、八八九	[illegible]	[illegible]
金州	三〇、三一六斗落	三七、三九二	[illegible]	[illegible]
濟州	一、一三三、〇反	二二、〇〇〇	[illegible]	[illegible]
咸興	六、一六五、〇	九一、〇〇〇	[illegible]	[illegible]
昌原	二、〇五六、〇	一八、三四二	[illegible]	[illegible]
鏡城	四、一五〇、〇	一、六二〇	[illegible]	[illegible]
海州	三、一四五、〇	一〇、四四八	[illegible]	[illegible]
密陽	一七三、〇〇一斗落	一四九、二四六	[illegible]	[illegible]
羅州	一、一〇九、〇反	六、五四〇	[illegible]	[illegible]
松禾	九八〇、〇	七、三五〇	[illegible]	[illegible]
寧邊	七、七八四、二	五七、六六〇	[illegible]	[illegible]
計	八二七、一三四反 / 一、八四四、九三六斗落	一四八三、八〇六	[illegible]	[illegible]

備考 本表は地方各支部及分の報告を綜合したるものに係り他日調査を要す可きものを合計するに非ざれば全額を知ること能はず
晋州、安義、咸陽、三嘉、山清、[illegible]は一斗落に付産式他の各郡は一斗落に付四斗産式の割合
全州、一斗落は日本の百五十坪餘にして一石は二十斗、一斗は二升なり韓升一升は日本の三升三合強なり
大邱、反別は韓國に於ける慣例の斗落を以て其實面積を知るに由なければ概算せし狀況に依り一斗落四十歩とす
密陽、目下の市場の相場は七兩乃至四十八兩にして[illegible]は九圓四十錢乃至九圓八十七錢[illegible]一割とせは九圓八十七錢[illegible]とす之れ大豆の減少せるより春季輸出の盛時には[illegible]を普通とす

文苑

寄帶戀　佳羅舟之戀

玉井南軒

かたくゆふ帶も夕はさくるよに
何かはとけぬ思ひなるらん

遊女の帶によせて

幾度かめぐり逢ひつゝ打とけて
ゆふひまもなくあくる年哉

待てど逢へざる戀

待ちわびて打出の濱に來しかども
君には今宵粟津野の原

小說

紘のみだれ（六）

永井櫻國

[illegible]

何處にあるかと云つたやうに、ニコ〜顔で苦しい世帯の中からも、娘の初見參を花々しく祝して遣らうと、見臺も梨地塗に定紋を附けた身分不相應な品を注文して調へ、熨斗目の黑紋附の着物に、上下は定紋を太く染め出した、熨斗目に作り、其外近所隣家や知合の人に頼むで景氣附のビラを貰ひ、平素から口喧しく苛め廻す勇五郎としては、能くもマアこれほどに身を入れたと不思議に思ふほど、何から何まで身分に過た準備を整へて遣つた。



[illegible]客だせ。」と云ふ時、傍からこれも同じやうな書生風の男が、突如に「ヤッ、今晩も來たな。」と、笑ひながら挨拶する、「今晩の語物を聽かない奴は、未だ以つて共に女義太を語るに足らん奴だ、ハヽヽ」「エス、エス、大エース、貴樣はなか〜話せる。」云ひつゝ札を買つてドヤ〜と二階へ昇る五時から開演と云ふのに、二階はモウ一は[illegible]

京城新報

東宮殿下の御歸着

日韓皇室の親交を敦ふし、狐疑猜嫉の念深き韓民をして、我 皇聖德の宏大なるに感泣せしめたるは確に我東宮殿下行啓の賜なりと言はざるべからず、閑殿下には去る十五日午前十時を以て無事御歸着遊ばされたりと云ふ思ふに殿下夙に英明叡聰の質に渡らせられ殊に御孝心の厚きは平素下民の敬佩する所其父 皇帝陛下と御歡晤御笑談の狀恰かも眼前に見るが如し、今や八道の蒼生殿下の高德に感泣して欣仰の情措く能はざるものあり、冀くは他日之が行啓を再びせられんことを

暴徒の來襲

暴徒大擧して我が漢城を襲はんとすとの噂あり、眞僞固より判明せざるも思ふに是れ或は風聲鶴唳には非らざるなき乎

皇軍堂々旗を擧け、皷を鳴らして八道の野に奮戰す、固より彼れ鷄鳴狗盜の輩、我が鎧袖一觸だにも値せずと雖も、其數旬に亘りて未だ之が勦討の功果を收めず、却つて漢城を襲はんとすとの噂を耳にす、眞に怪訝に堪へざるなり、知らず當局者は今後果して如何の方策に出でんとするものぞ

龍山の民長

或は野本氏起つべしと云ひ、大村氏留まるべしと傳ふ、巷說區々として旗色未だ明かならず中原の鹿果して其何人の手に歸するやは知らずと雖も、吾人をして公平に言はしめば其人格の高潔にして且つ統御の才を有し學才併び具ふるの士の當選せんこと是れなり、思ふに彼の徒らに情實に走り、季縁に依り、自分勝手の屁理窟を振り廻はして無爲無能の士を推選せんとするが如きは是れ唯に居留地の不利を招き且つ居留民の面目を失墜するのみならず、恨みを後日に貽すの原因たりと知らずや、殊に駸々として澎漲發展の機運に向ひつゝある現下の龍山に於てをや

北京電報

間島問題(十六日發)

清國政府は間島問題に關する主張の論據として豆滿江を境界とする旨を明記せる千八百八十七年付の韓國皇帝の書簡を提供せり

東京電報

水戸藩主以下贈位(十五日發)

大演習行幸に付き水戸藩主勤王家學者等二十四名に對し贈位の御沙汰ありたるが其中從五位の德川治康に正二位、新井白石に正四位を贈らせられたり

兵學校卒業生(同上)

今回の江田島兵學校卒業生は百七十一名にして其中成績優等にして御下賜品を拜受すべきもの三名なり

各地電報

統監府來年度豫算(十六日發)

韓國統監府四十一年度豫算は經常費臨時費を合せて百三十五萬三千餘圓にして本年度豫算に比し三十萬圓餘の減額なり間島經營費は四十萬餘圓を豫算せり

暴徒の暴狀(十五日天安發)

本日午前八時半賊六十全州の西方一里シヤクトーを襲ひ家を燒き人を奪ひインタイ方面に去れり

渡邊農場の賊襲(同上)

全州サンレイの暴徒約百名渡邊農場を襲ひ日本人一名を殺し家屋を燒けり被害約一萬圓

雜報

伊藤統監の謁見

伊藤統監は目下入京中の香港裁判所長ピコツト氏及び今回着任せられたる岩崎海軍少將、明石陸軍少將、鈴木齋藤兩海軍主計大監、中村同中監等を帶同し敬意を表する爲め來十九日昌德宮に參內謁見せらるゝ筈

太皇柱洞宮訪問

太皇帝が來る十八日雲峴宮に行幸し兄君完興君李載冕氏を御訪問あらせらるべしとのことは前號所載の如くなるが今又聞く所に依れば同日桂洞宮をも御訪問あるべしと尙ほ皇太子にも同日桂洞宮に行啓あるべしとのことなり

答禮大使

曩に我 皇太子殿下の御渡韓あらせられたるに對し韓廷よりは近々答禮大使を日本に送るとの事なるが李載覺氏其任に當るや否やは未だ決定せずと云ふ

皇太子留學に付て風說

韓人間の風說によれば嚴妃は亦々巫女の言を信じ絶体的に皇太子の日本留學を厭はれ如何にもして其行を止めんと計りつゝありと云ふ、其理由は太子若し渡日せば再び韓土を踏むこと能はざるべしと、

新設師團長

新設第十七、十八兩師團長は十三日左のごとく任命されたり

任陸軍中將、補第十七師團長 陸軍少將 一戶兵衛
任陸軍中將、補第十八師團長 陸軍少將 木村有恒

中少將の新任

去る十三日付にて左の如く任命せられたり

(各通)

任陸軍中將 陸軍少將 楠瀨幸彥
陸軍少將 內山小二郎
陸軍少將 大迫尙道
任陸軍々醫總監 陸軍々醫監 森林太郎
任陸軍少將 陸軍憲兵大佐 內田忠直
陸軍工兵大佐 木全多見
陸軍輜重兵大佐 奥村元信
陸軍砲兵大佐 渡邊忠三郎
陸軍砲兵大佐 兵頭雅譽
陸軍砲兵大佐 栗山勝三
陸軍輜重兵大佐 山本登喜次
陸軍憲兵大佐 石川敦古
陸軍砲兵大佐 本庄道三
陸軍砲兵大佐 松本鼎
陸軍砲兵大佐 山口勝
陸軍砲兵大佐 青木宣純
陸軍砲兵大佐 星野金吾
陸軍砲兵大佐 柴五郎
陸軍砲兵大佐 大島健一
陸軍步兵大佐 黑澤源三郎
陸軍步兵大佐 林太郎
陸軍步兵大佐 江口昌條
陸軍步兵大佐 松石安治
陸軍步兵大佐 太田榮次郎
陸軍步兵大佐 青木勘次郎
陸軍步兵大佐 恒吉忠道
陸軍步兵大佐 兒島八二郎
陸軍步兵大佐 井口五郎

任陸軍少將

野津大佐へ下賜金

過日歸朝されたる軍部顧問官たりし野津大佐及び同補佐官たりし鈴木順見氏へ韓皇より一昨日付を以て左の御下賜金ありたり

野津大佐へ 慰勞金七千五百圓 旅費 四百二十圓
鈴木順見氏へ 慰勞金一千圓 旅費 百八十圓

昨日の秘密民會

既報の如く昨日午後四時より仁川民役所に於て土地交換問題に關する民會を開きたるが同議案は事外交に關し土地發展上に至大の關係を有するを以て一切秘密會となし愼重の審議をなす所ありたり

斗量場と委員會

穀物協會に於て海岸斗量場に關する請願を提出したる事は昨紙に記載の如くなるが是に關し民團に於ては愼重の審議を要すべきを以て來る十九日午後三時より委員會を開き調査する所ある筈

關釜連絡船の新造

我帝國鐵道廳の經營に係る關釜航路は目下壹岐、對馬の姉妹船及び會下山丸を以て專用しつゝあるが日韓關係密接頻繁に趣き將た其經營の擴張に伴ふて自ら輸送力を增加せしむべき方法を執らざる可らざることとなるは自然の勢なりとす而るに現今の船体及び速力にては時に風浪等の支障を受くることなきにあらざるを以て今少しく船体を巨大にして速力の早きを要とするの事情あり遂は殆ど內外一致の要望とも見るべき姿ありしが當局に於ても茲に覩るあるものゝ如く幸ひ我某汽船の新船に着手せられたるを以て平時は之を此の航路に利用せんとの計畫あり隨て航路の深淺、波浪の抵抗等其造船上に對するの調査として櫻井瀨事官が態々來りて充分の視察を遂げたる由なれは其新造船の進水を終りて艤裝成るの曉は我釜山港頭に巨大の高速力を有するの新汽船を覩るの機會あるべし因みに本航路は短距離の割合に頗る有利にして每月收入四五萬にに上り其國家の純利益は一日分の平均一万七八千圓乃至二三萬圓の間にありと云ふ

間島の日本人

目下間島に在住せる日本人は我官憲側の人々を除き約二百人にして官憲所在地には既に四軒の料理店を開店し居れるが統監府にては近々五六十万圓を投じ同島の某地點を相して完全なる一市街を築造せんとの計畫あり目下調査中なりと

京義線改良工事

京義線全體の改良工事中平壤京城間が既に大半終了し汽車牽引力の如きも豫定計畫通り成就すべく來年六月頃までには全部の改良工事を終り汽車牽引運搬の如きも凡て豫定計畫通り運轉するを得べしと聞く

仁川十月中商業狀況(承前)

▲三月 三月となりては月の初め新發展地たる朝鮮町に大火災起り其損害六十三万二千餘圓に達し金融界に不時の變動を來たし之が爲めに小商人は大なる打擊を受け大商人との融通を阻害せし傾きありしも罹災者中割合に大貿易者尠かりしを以て甚しく斯界を攪亂せるに至らざりし中旬以來各地解氷と共に諸雜貨數も多少の荷動きあり下旬に入りて出穀一時に多きを加へ就中玄白米及大豆の出廻りは激增して前月に倍するに至れり

沍寒のため休止せし工事も追々着手せられんとし商況稍恢復の色を顯はし綿糸煙草其他韓人向雜貨の取引比較的盛んに行はれ殊に夏物商品の輸入漸次增加するに至れり本月中當港より大連に向け輸出したる白米は三万五千餘圓に達し日本への輸出は約三万圓にして他商品を倂せ輸出總額二十七万七千餘圓に上り前月に比し約十万圓を增進するに至り又輸入は激增して一百五十万八千餘圓に達し前月に比し二倍以上に上り一般商況前月に比して活氣を見るに至れり

▲四月 四月は出穀稍好調にして上旬は入津相變らず相應に之れありしも日本安の爲め荷動き捗々しからず稍停滯の氣味なりしが中旬より下旬にかけて大連へ輸出續々行はれ其額二万圓以上に達し稍氣强きに至れり大豆、小豆及牛皮は日本安の爲め幾分か下落し產地賣惜みの姿にて出廻は少なく輸出二十八万餘圓にして前月と大差なく輸入品中綿糸金巾類及砂糖等は氣配不活潑にして賣行鈍く保合の姿なりしも日用雜貨は日韓人向とも賣行相應に之れあり比較的小商人の取引繁忙を見たり例年本月は韓國一般市況閑散に陷るを例とすれども近年韓內地に於ける邦人の發展並に各種經濟機關の發達は稍此傾向を脫し當月に入るも著しき變化を來さず前月以來引續き寧好況に經過せり

安東縣航船の積荷

既報せし商船會社安東縣航船能登丸は本日仁川出帆の豫定なるが仁川より雜貨二百個米四百石を搭載すべく且鎭南浦にて米穀類の積込ある豫定なりと

長崎輸出大豆

本日仁川出帆の信濃川丸は大豆六千石を積載し長崎に向ふ筈

在外本邦公債崩落

ロンドン、ベルリン及びパリの市場に於て本邦公債は崩落しつゝありと云ふ

倫敦より紐育へ金貨輸送

ニューヨークの恐慌を救はんが爲め今日までにロンドンより同地に輸送せられたる金貨は一億二千万圓に達したりと云ふ

香上銀行日步引上

在橫濱及神戶のホンコンシャンハイ銀行支店は貸出利率を六分より從來に例なき八分に引上たりと云ふ

ニューヨーク恐慌下火

ニューヨークの恐慌は漸く下火となりつゝあるも向後數多の倒產者を出すを免れざるべしと云ふ

五八支店の帳簿檢查

五八銀行京城總支店檢查課長河井樋之助氏は再昨日より仁川支店にて諸帳簿檢查なりしが昨日終了歸京せり

賊首魁を捕ふ

平安道孟山方面に出張せし我警官は暴徒の首魁三名を逮捕し十三日順川を經て平壤に拘致せり

楊州方面の小鬪

昨十六日楊州憲兵分派所に於て議政府と楊州との中間高陽に通ずる間路に暴徒五六十名の集會せるを探知し陽州分遣所の巡查六名巡檢三名と協力して議政府分遣所憲兵と聯絡を通じ午後五時三十分より交戰三時間の後悉く擊退したり暴徒の死二、負傷十五六名の見込にて鹵獲品は左の如し

日本馬四、驢馬二、牛二、火繩銃二十三、日本刀一、弓箭九本、書類入革鞄一、提灯二、印箱一

尙攻擊に從事したるは憲兵下士三名兵八名巡查六名なり

暴徒參禮を襲ふ

十五日午後十一時全州增警視の電報によれば十四日午後十一時全州を距西北方三里の參禮に約八十餘の賊徒來襲し在留民家屋燒燬中との報あり依つて本日午前二時守備騎兵將校以下三十憲兵下士以下六小官は午前三時警部以下十三巡檢四を率ひて同地に急行したり

伊川邑の火災

暴徒の爲め江原道伊川邑にては暴徒の爲めに燒失せられたる民家は百有七戶の多きに及べり而して賊は邑の數里の地に尙ほ二百名以上集合し居れり

不通電線の復舊

一昨日京城義洲間電線の中京城開城間を何者か切斷したるため京城平壤及仁川鎭南浦間の電信不通となりたるが其筋にては交通上重要なる本線の事なるを以て其改修を急ぎたるため同日午後五時に至り漸く復舊するを得たり但し仁川鎭南浦線は未だ不通なるも平壤に於て中繼するを以て通信に差支なしといふ

通津の暴徒

去る十日の拂曉銃劍を携帶せる暴徒十九名船にて月串面祖江浦に上陸し洞民を威嚇し金錢を掠奪し去れり

暴徒電線を斷つ

高陽に於て暴徒が我日本人及び韓人に危害を加へしことは前紙に報道せしが尙ほ聞く所に依れば日本人一名は其場に於て殺され二名は行衛不明にして韓人一名は頭部に負傷したりといへり而して暴徒は此の一行を攻擊したる後近傍の電柱を破壞しまた電線を切斷したる爲め京城開城間は電信不通となれり

暴徒の强盜

議政府を西方に距る約二十丁直洞といへる所にて藥種商を營める精昌植方へ去る十三日午前六時頃暴徒約九十名來襲し室內に亂入し現金十五圓と衣類若干(此代百圓)粟一石を掠奪し去れり而して此の賊は各自背銃を携帶し居りて服裝は韓人服なりしと

崔禹相以下の懲戒

前陸軍正尉崔禹相外三十九名は妄動に與みしたるも情跡恕すべきものあるにより懲戒免官すべき旨去る十二日李總理李軍部大臣より奏上したり

射擊演習

步兵第五十一聯隊第六中隊は明十八日城北洞村附近に於て小隊(分隊)戰鬪射擊を執行し同第八中隊は二十一日同處に於て各個分隊戰鬪射擊を執行する由

曾根副統監の水原行

曾根副統監には本日水原に赴けるか其目的は農事試驗場及其他諸事施設の跡を巡視するにありと

中島參謀の忠州派遣

忠州方面の賊情視察のため軍司令部にては昨日中島參謀を派遣せり

遠藤局長上京

遠藤仁川局長は事務打合の爲め入京せり

石川少佐より禮狀

當守備隊大隊長たりし石川氏は過日開城に引揚げたるが同氏より當民團に宛て在仁中の禮狀を寄せ來れり

日戶勝郎氏

從來韓文雜誌を發行して韓人間に新智識の分布に勉めつゝありし同氏は今回設立せられたる大韓協會の顧問となりたりと云ふ

稅務官の免官

密陽稅務官李宗植は收稅上非行ありしため免官となりたり

郡守の官金費消

全州茂長郡守徐相二は稅金三萬三千餘元を私消し財務官の爲に告發されたり

宮殿伺候者

昨日昌德宮に伺候せる重なる者は左の如し

義陽君、李載覺、完興君、李載冕、軍部大臣李秉武、宮內府大臣李允用、侍從院副卿李會九、掌禮院卿李謙濟、侍從長趙民熙等百九十七名にして德壽宮へは完興君、李載冕、李允用、閔侍從、院卿侍從長趙民熙等百二十六人なりし

昌德宮登宮者

一昨日の登宮者は宮大臣李允用氏只一名のみなりしと云ふ

礦區採掘許可

慶尙南道陝川郡上北面に於て面積六十九萬二千七百七十七坪並に同道高靈郡には八十万八千八百廿五坪の礦區は曩に京城明治町山本維城氏より出願中なりしが昨日其筋より許可せられたり

京城博覽會閉會

去る九月一日より開會したる京城博覽會は豫定の如く一昨日午後五時の閉館時間までにて愈よ閉會したり當日は午後五時の時計の針が其時間を指すや煙花三發打揚げ閉會を報じ以て閉會の式に換へたり開館初日よりの入場者累計二十八万八千六百九十人にして此賣上高は一万九千七百六十一圓九十七錢五厘なりし先づ初めての博覽會としては成功と云ふべし尙ほ最終の入場者は二千九百二八賣上高九百十二圓二十一錢なりしと

協贊會閉會式

同會の閉會式は豫て記せし如く昨日午後一時より本町座に於て擧行し熊谷會長同會の經過報告等ありて式を終り手踊落語等の餘興あり盛會なりし

京城發達史編纂委員會

目中編纂中なる京城發達史の編纂委員は來る十九日旭町四丁目なる同事務所に於て委員會を開き同史編纂上の打合せをなすと云ふ

賣捌所標札改正

郵便事務規則に基づき仁川市中の郵便及收入印紙賣捌所の標札を改正したり

▲治外法權▼

現皇樣には已に昌德宮に遷せられ先皇樣にも近日安洞宮へ移らせれるゝと云ふ、安洞は邦語の行燈に似てなんだか明るくない所の樣に思はれる▲ソレはドウでも良いとして二皇の見捨てた慶運宮は一体ドウなることであらうか▲不運なる慶運宮は何のせいであつたかツイ此頃までは伏魔殿と呼ばれ亦陰謀窟とも云はれてたつた、而し夫は雜輩共の罪であつて宮殿其物の罪ではない、土左衞門の居らぬ所へ鳥は來ると云から、今後は必ず清潔になるであらう▲御主人の居ない家は空屋だ、空屋分家屋不足の京城でも慶運宮をば普通の突同樣賃貸に出す譯にもゆかぬ▲今の統監府廳舍は實に御粗末の者である、ソレモ其筈之は假の廳舍であるからである、立派な物も何れは立つであろうがソレは急にと云ふ譯にはゆかぬ、ソコデ拙者の考では今度空屋になつた慶運宮を借受けて之に統監府を引移したら良からうと思ふ▲布哇の舊王城は今は行政廳になつて居る、此王城が王政時代の伏魔殿、陰謀窟で有たことは今尙世人の記臆して居るところである、併し宏量なる米國人は此王城を不淨の者とせずして行政廳に使ふは中々感心の次第である、聞くところによれば此一擧は土民の統治上中々有効な事であつたソウである▲統監府の先生連は米人の眞似は出來ないと云ふかも知れぬ、併し金が費らずに便利になつて而も政治上に効果があると云ふことなら躍更眞似ても惡くはないではないか▲元來韓國の最高行政廳とも目るべき統監府が南山の一偶に隱れて居るのは甚だ不贊成である今や恰適の空屋があるから是非引移れと勸めるのは何も不思議はないのである

雜報

流行の駒下駄

本年も餘す所僅か四十餘日皆さん正月用の下駄も夫々御好みもあろうと思ふから昨今東京にて流行の駒下駄を紹介する事とした

△婦人向 當時最も流行せるは兩ぐりで羽の薄いのが喜ばれる、之に次ぐものは月形利久形、濱路形など。此等は生粹で、人柄で、車の乘降りが極めて容易であるから、近年盛んに用ひられる、令孃向となると、先づ二段小町であらう、花柳界の一部では堂島形を賞用する。

△男子向 男向としては、殆んど兩繰り堂島の二種に限られて居る、夏向には多く、桐柾の薩摩下駄を用ひるが、これは紳士、紳商から書生、丁稚に至るまで、殆んど一般で、たゞ書生、丁稚には、桐の柾など云ふ立派な物でなく山桐のそれである。

△表 は先づ南部が第一位を占めて居る、次は鬼藤表、これは持の宜いのと、夏向き冷かなので、大分南部表の領分を蠶食して居る。それから、晒の白藤表は塗り臺に配合が宜いといふので、婦人間に賞美される。絹糸又はクヽ杯で編んだ物は、以前大分に見掛けたが、今は形なしとなつて了つた。近來出來たのでは、綴織や繻珍の帛地を張つた千代田草履の表を其儘駒下駄に用ひたものがある、これは生粹で、體裁も宜く、割合に直段も廉い。臺灣パナマ、龍鬚などの表は、ホンの或る一部に見るだけである、此外には、晒の鯨を網代に編んだもの、これは澁い好で、吾妻下駄、利久形などに取合が面白い。贅澤向では、白鯨と太白絹絲を、五厘太位に、辨慶縞に仕たものがある。

△鼻緒 以前とは違つて、今は特に鼻緒として織り立てるので、種々の模樣を工合宜く現す事が出來る。元は普通の帛地を其儘用ひて居たのであるから、何うしても思ふ樣な模樣を出すことが出來なかつた、近頃は友禪、繻珍などの柄合を天鵞絨に應用したり、又は之を金華山織綿天織とした物などが流行する、博多、琥珀なども賞用されて居るものである、圖中には、底銀の厚板に、黒又は納戸色で竹の葉を現したもの白琥珀にオリーブ色の葉に彩絲の花や金絲銀絲を一寸覗かせた物、薄鼠地の毘天に紺白で、蝙蝠を現はし、眼へ朱を差したもの白の毘天に芭蕉、蔦、草花、蕣などを友禪染としたものなどが見ゐる。此等は生粹で黒塗の月形の臺に配合が佳い。此他、籠目の浮織、金華山、釘拔きの染込、釘拔き崩し、柳に蛇籠、小波の貝絞り、芙蓉染の鼻緒などは、優雅な吾妻下駄、又は黒塗りの操小町などに映り宜く、令孃向の畵履に用ひられる、無地物では、天鵞絨では貴族鼠白鼠、白利久、淡鼠、銀鼠等。此等は兩操り、角切小町、雲井形、中折れなどに配合宜く、派手向には、チエリー、淡紫、オレンジの薄物、壁、薄桔梗、桔梗鼠、芙蓉紫など、操小町、月形、濱路形に適する、これへ鬼藤か、綴、またはパナマの表を附ければ、先づ流行の中央である。

●外國婦人京美人を罵倒す

この程京都ホテルに投宿せし二人の婦人ありエス、ビショツプ夫人(五十年)同じくエル、ビショツプ孃(二十年)とて何も容貌極めて美しこれは米國海軍大佐ビショツプ氏の夫人にして紐育の生なり兩人とも今までに日本に來り滯留して風流に日を送りしこともあり一兩日前兩人は久々の京都入りを機として祇園の巷に遊び平素行儀よしと稱せらる京美人を見て樂しまんと思ふ程にホテル員より一度はゲーシヤ、スクール(女紅塲の事)を御覽せよ參考ともなるべしと勸められ左らばとてホテル員同道にて祇園女紅塲に赴きぬ、さて舞踏科を始め各敎室を隈なく巡覽せしが幾度も嘆息の言葉を洩らしホテルに歸りていふやう、妾等は元來日本贔負なればツイ日本に來れば逗留の日數長くなり殊に京都は氣に入りの地ゆゑ幾日遊覽すとも飽くことを知らず、それにつれて京美人も妾等の最も好む所にて藝者遊びもなかく面白し左れど今日ゲイシヤ、スクールを觀覽したるに實に意外なりき、稽古に來る者はいづれを見ても皆眠たげなる顏附にて行儀も何もあつたものでなく琴を彈くにも三味線を持つにも嫌さうな樣子にて秩序亂れたり妾等は敢て京美人の容貌が追々惡くなつたといふにあらず又藝が發達せぬといふにもあらず藝者は矢張り品格を保ち動作を正しくしてこそ賞賛に價値するなれ、今日見たる所にては、よし稽古にせよ藝者の行儀頗る惡しゲイシヤ、スクールには正しい規則あるにしてもあのやうな風では本當に困るなり、妾も今度の觀察にて藝者の底が皆判明りたりモウ／＼藝者遊びなどは止めるべし日本藝者の貴い所は品格と行儀の二點なり、もし此二點缺けてあらばいかに美しき容貌にても厭なりとて京美人のために大いに痛歎したり、この罵倒なかなか味あり捨て難き所あり祇園の美人連鼻ベチャなり確乎れしね

お化銀杏の祟り

神田の火事 神田區臺所町十二朝日湯事治田仁太郎方より十二日午前三時卅五分發火し同家の室内全燒して鎭火したり原因は前夜竈の跡仕舞惡かりしものならんといふが近所には奇妙なる風說ありて同湯は本年五月頃同區明神山の神木にてお化銀杏と稱へられて近傍の者より恐れられ居る大木の枝を切り落して薪材となせし事あり夫より同家に不思議の事のみつゞき右の銀杏の木を焚きて沸せし湯に仁太郎の妻は入浴して湯中に頓死なしたる事もあり今回の火事も前夜は十一時頃に早仕舞をなして決して發火する如き手落なき積りなりしに思ひがけぬ出火なりとて近邊にてはお化銀杏の祟りならんといひ居れり

●開業と店出し 火災後久しく休業せし南山町三丁目の掬翠樓は燒殘りの家屋に修繕を加へて一兩日中より開業するとのこと新町の松榮樓より今度兵庫縣武庫郡西宮町の武田千代野(三十)が源氏名を政吉と名乘り大阪北區堂島北町の木村すゑ(二十三)が同梅子と名乘り京都府下京區七丁目の前野まさ(三十五)が同若龍と名乘り今日より何れも二枚鑑札にて店出しするとのこと

●東雲畵會 目下在京中の畵家淸水東雲氏は來る二十日頃其揮毫に係る畵の展覽會を催し席上揮毫をもなし來賓觀者の需めに應ずると最も場所は未定なり

●釜山虎疫全滅 一時猖獗なりし釜山の虎拉列は愈々全滅し再發の恐れなき旨同地會議所より仁川會議所に通商ありたり

●初發以來の虎患者 各地に於ける初發以來の患者左の如し

		發生	全治	死亡	現在
釜山	日	九〇	二六	六五	三
	韓	四一	九	三二	無
平壤	日	一七	四	一〇	三
	韓	五八	七	五一	無
新義州	日	一六	二	四	無
	韓	六一	一八	四三	無
	淸	一〇	三	七	無

●お灸の數々 當地本町三丁目佐野彥造方雇人駒田吉は去る十四日荷車を道路に横たへて通行人の妨害をなしたるにより五十錢又大和町一丁目の雜貨商稻垣德三郎は他人の屏壁に廣告の貼付をなしたるにより三十錢何れも科料に處せられたり

●本町座藝題 本町座に興行中の北村一座の演劇は一昨夜の如き札止めの好人氣なりしが本日の藝題は大阪毎日新聞懸賞小說の「嫁が淵」にて役割は左の如し

劍客佐藤佐助、百姓太郎左エ門(井上)百姓五郎造(新田)定吉妻お糸(西本)學校小使勇吉(大島)大山おたみ(桂)子爵春越文隆、醫師原田策三(横山)井原令孃ユリ子(吉田)百姓馬造(谷)校長村井賢造(中澤)百姓江川定吉(保岡)女中おきぬ(小泉)井原猛夫(青木)警部岩見定吉(北山)井原支配人泉令助、學生鈴木平三(三木)矢上妹お梨花後に春越愛妻種子(三井)百姓大太郎(淸水)馬鹿五太郎(森)小學校敎師矢上政八(北村)

尙は十八日の藝題は「當世女」にして役割は旅舘主人伊兵衞、森口松太郎(井上)重吉の兒分貞三(新田)岡村定子、西田唯子(西本)郵便配夫吉田(大島)女中おきた、山下蓮子(桂)下宿屋お待、おきぬ、田村久太郎(横山)華族令孃淸子實は女賊おきよ(吉岡)書生小木曾泉番德七(谷)下男矢七(中澤)關口源太郎(保岡)召使おしも、女中お作(小泉)田村久右工門、箱乘十吉(青木)刑事田中(北山)西田穀負(三木)召使おどり(三木國)西田時子(三井)下男權十(森)書生安田健三(北村)

●正誤 昨紙輸出運賃値下の協定の記事中二千圓以上に達したるものは八分とあるは五分、及割引とあるは割戻の誤り

●取消 前號に記したる仁川民會の商議案は無根につき取消す

●三面猫棒 龍山では大層賣春婦狩りをやつて龍山の天地を廓淸せうとしたのは大に喜ぶべきことであるが元來龍山の各料理屋とも監部什設時代より酌婦仲居に對しては女郎屋同樣檢梅を行ひ居れりと聞くされば賣春婦に就ては公許否默許したも同然でチトホコトンであるまいか(龍山の猿)▲龍山遊廓敷地に就ては種々の說あるが若し之れが事實を探りて世に曝露したら或は利權の問題となりはしまいかとは其局にある人々の頭を痛むる所であるさうな(龍山居士)▲如何に新開地のことゝは云へ京城程曖昧的料理屋や飮食店の多き所はあるまい其數を數へたらザツと三百もあらうそうして何處も此處も可なりに賑つて行く所を見れば人間は色氣と食氣の固まりと見へる思へば世の中が厭になる(アーメン)▲虎列刺發生に就て淸潔法を勵行されたので市街の體裁が面目を改めて實に結構と云ふべきであるが人間は飯も喰へば酒も呑み水も飮み茶も飮むから何日何時途中に於て便通を催さんとも測られず路傍にシヤ／＼やればお目玉を頂戴した上科料と云ふものに處せられねばならぬ故に市街の體裁を損せぬ樣堅固な辻便所を建て貰ひたい國庫の收入を殖す爲めに態と現狀を維持すと云はゞ其迄だ(取られた生)▲今日は汚ない長いものばかりだからモ少し奇麗なこと、短文で投書を願ひます(痛棒子)